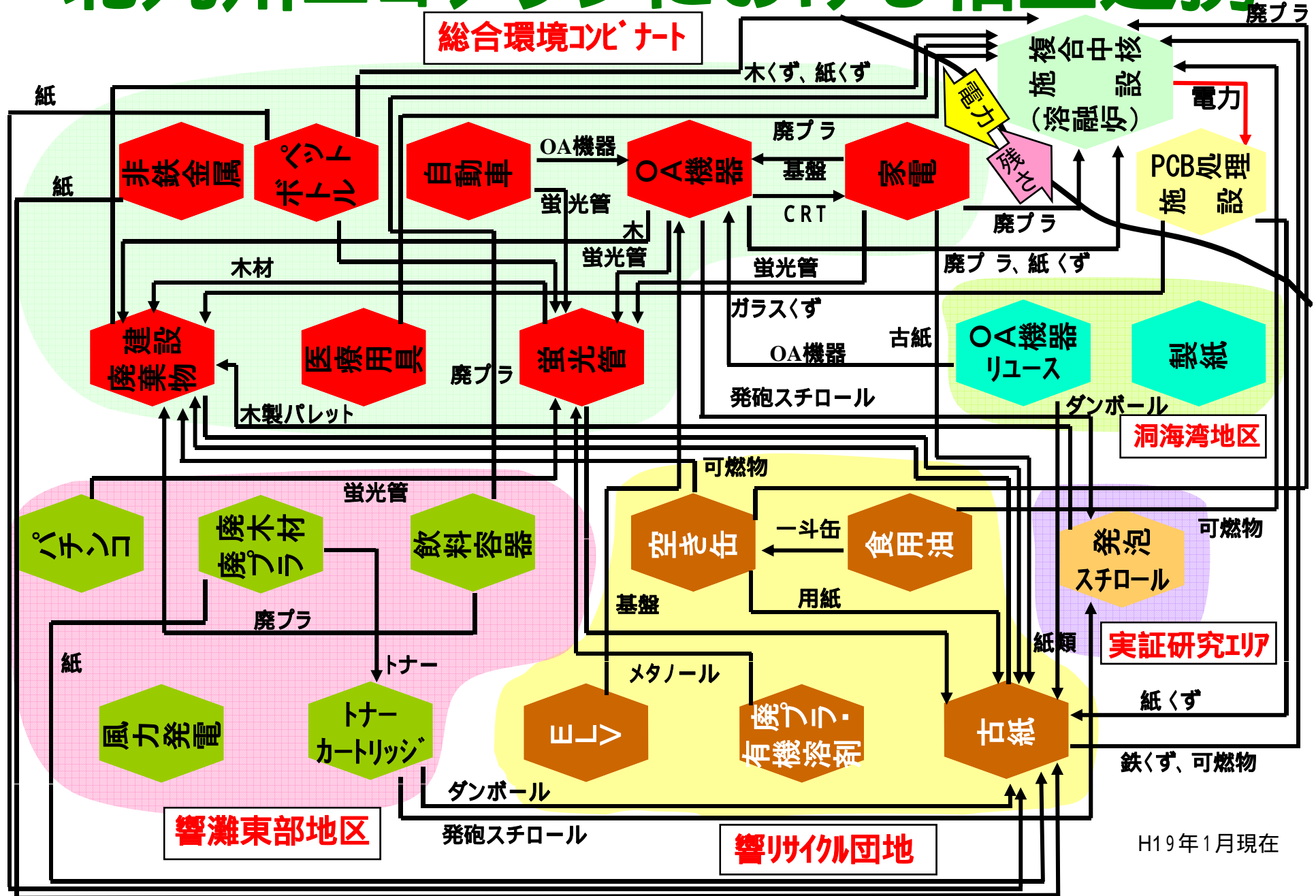


PCB処理施設



(株)日本環境安全事業(株)による広域処理拠点。九州、四国、中国17県から運搬。

北九州エコタウンにおける相互連携



市民の理解と信頼

市民の皆さんの不安感、不信感、不快感の払拭を目指して

工場見学



自動車リサイクル工場



OA機器リサイクル工場



ペットボトルリサイクル工場

工場見学

全てのエコタウン企業の見学が可能

見学は市民優先

毎週火・木曜は、
市内の学校の優先日

申込は、
エコタウンセンターまで

エコタウンセンターでの展示・説明



市民団体による建設反対運動

ドクロマークの帽子をかぶり、横断幕を先頭にパレード行進する参加者



PCB施設、白紙撤回を

建設反対の市民団体 若松で署名活動やデモ

全国初の有害化学物質PCB（ポリ塩化ビフェニール）処理施設の建設計画に反対する市民団体が25日、建設候補地の若松区で計画の白紙撤回を求める署名活動などをした。

署名を集めたのは若松区の主婦などで作る市民団体「響灘を危険物ごみ捨て場にするなの会」（南部和見代表）。会は毎週日曜日、小倉北区や八幡西区など市内の繁華街で反対の署名活動を進めている。この日は約50人が若松区中川町のえびす市場前広場から同区本町の若松図書館前までの約850mを「北九州にPCBを持ち込むな」とシュプレヒコールをあげながら、

横断幕を先頭に行進。図書館前で署名を呼びかけた。

南部代表は「昨年末に比べ、運動は盛り上がりつつあるのを感じる。PCBの処理技術や運搬中の安全性はまだ確実といえず、計画の内容もはっきりしない。いったん計画を白紙に戻し、住民への説明をきちんとしてほしい」と話していた。

PCB処理施設は国が昨年末に全国初の施設として建設を計画、市に立地を打診していた。市は6月末をめどに最終決定するが、末吉興一市長は20日に「安全性が確保されれば受け入れる」との立場を明らかにしている。

【竹花 周】

平成13年2月26日毎日新聞（朝刊）

市民と専門家との意見交換会



平成13年5月26日(土) (市民450名参加)

エコタウン・PCB処理施設立地で学んだこと

徹底した説明責任を果たす

・・・「いつでも、どこでも、誰にでも」

徹底した情報公開・・・「迅速に、正直に、正確に」

リスクコミュニケーションの実践

* 信頼獲得のためには・・・

レベル1 . マニュアル本で指摘される対応

(誠実、情報公開、説明責任、科学的・・・)

レベル2 . リスク管理責任者への信頼

(よくわからないが、その人に任せられそうだ)

レベル3 . 主要価値を共有できる関係かどうか

(あの人の日頃の言動から間違いない)

地元自治体
職員の役割